

# くらしを支える羽曳野市に

## 国保料の引き下げを

平成24年度の保険料は、一世帯・年間15万8,767円で、依然として府平均より7,172円高くなっています。羽曳野市の国保会計は、約10億円の黒字と基金約9億円の剰余金があります。この内の1億円を使えば、一世帯・年間一万円の引き下げができます。

羽曳野市の仕事は「福祉の向上」に力を尽くすことです。財源が充分あるにもかかわらず、市民の切実な願いに応えない市の態度は、断じて許せません。

引き続き、引き下げのため全力を尽くします。



## 水道料金の引き下げを

羽曳野市の水道水は、約半分の水を府から取り入れています。水道料金は、大阪広域水道企業団が2度、受水単価（大阪府からの水）の引き下げをし、大阪府の水1mあたり13円10銭安くなり、平成25年

度では、約8千7百万円も羽曳野市の受水費が減ることになります。市は、「利益が出た余裕資金は、施設の改良のために備えて持っておきたい。」と言いますが、市民の暮らしが苦しい中、財源があるにもかかわらず一向に引下げをしようとはしません。

羽曳野市は、当然水道料金の引き下げをすべきです。

# 教育環境整備にがんばる羽曳野市に

## 暑さ対策はエアコン設置で——公共施設でエアコンないのは幼稚園と学校の普通教室だけ

エアコンの設置を計画的に進め、行き届いた教育環境整備に努めるよう求めました。市は、「予定も計画もない」との答弁を繰り返すだけ。もっと教育環境整備にビジョンを持つべきです。

## 学校のトイレ、流れは洋式化

学校のトイレが洋式に変わりつつあります。市内の学校でも約半数が洋式に変わってきています。各家庭が洋式トイレになってきている中で、学校も積極的にトイレの洋式化を目指すべきです。産経新聞社の調査によれば、約8割の子どもが洋式を望んでいるとのこと。



市内学校施設の、改修された洋式トイレ

# 自然エネルギー社会をめざす羽曳野市に



緑と市民の協働ふれあいプラザ

## 公共施設に太陽光パネル設置を

写真は通称「エコプラザはにふ」に設置された太陽光パネルです。年間の発電量は、約2万4千kwhあり、エアコン使用の電力に充てています。発電量をすべて売電した場合は、年間約100万円の売り上げとなります。市役所や公共施設に太陽光パネル設置を促進することによって、自然エネルギー社会をめざすべきですが、市は、「国の動向を見守る」ときわめて消極的な姿勢です。

# 実現しました！ 高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成



高齢者が肺炎で死亡することが急増する中、「近隣市のように、高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用を助成すべき」とこれまで繰り返し議会で求めてきました。今議会では、平成25年度一般会計補正予算で、ワクチン接種助成が予算化されました。

助成対象は、75歳以上の市民で、助成額は、1回接種3,000円です。近隣市では、対象者が65歳以上や、助成額が5,000円と充実しているところもあり、さらなる充実を求めています。